

丹波地域環境パートナーシップ会議

設立10周年記念号



令和6年3月

目 次

- P 1 設立趣意書
- P 2～ 3 丹波地域の気温変動について
- P 4～ 7 会員が感じた地球温暖化・気候変動の影響
- P 8～12 危惧される特定外来生物について
- P13～15 10年間の活動状況
- P16～42 会員活動紹介
- P43～44 会員一覧

<表紙の写真>



丹波地域環境パートナーシップ会議は、自然保護、温暖化防止、環境学習の推進などに取り組む多くの皆様に参加いただき、平成25年11月21日に設立しました。
ここに改めて設立趣意書を再掲します。

丹波地域環境パートナーシップ会議設立趣意書

丹波地域は多紀連山をはじめとする山々や加古川、武庫川、由良川の源流、盆地に広がる田園など豊かな自然環境に恵まれています。さらに、日本一低い分水界を通じて日本海側と太平洋側の生物が行き交う「氷上回廊」など生物多様性の豊かな地域でもあります。

都市住民や企業とも連携し、これらの自然保全・再生を図るとともに、自然とのふれあいの場をつくるなど、丹波地域の自然に対する理解を深めるための学習の場として活用しながら、豊かな自然を保全し、次代に引き継いで行くことが求められています。

このため、丹波地域において自然保護、温暖化防止、環境学習の推進等に取り組んでいる住民団体と市・県など行政機関等が共に環境に関する取り組みを進めていくことが出来るよう、それぞれの活動内容や状況について情報を共有し、連携を深めていくことを目的として「丹波地域環境パートナーシップ会議」を設立することとしました。

多くのみなさま方にこの会議に参画いただき、みんなのネットワークで丹波地域の豊かな自然を守っていきましょう。

平成25年11月21日

丹波県民局長 梅谷 順子

丹波地域環境パートナーシップ会議顧問

兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

河合 雅雄

兵庫県立森林動物研究センター所長

丹波地域の気温変動について

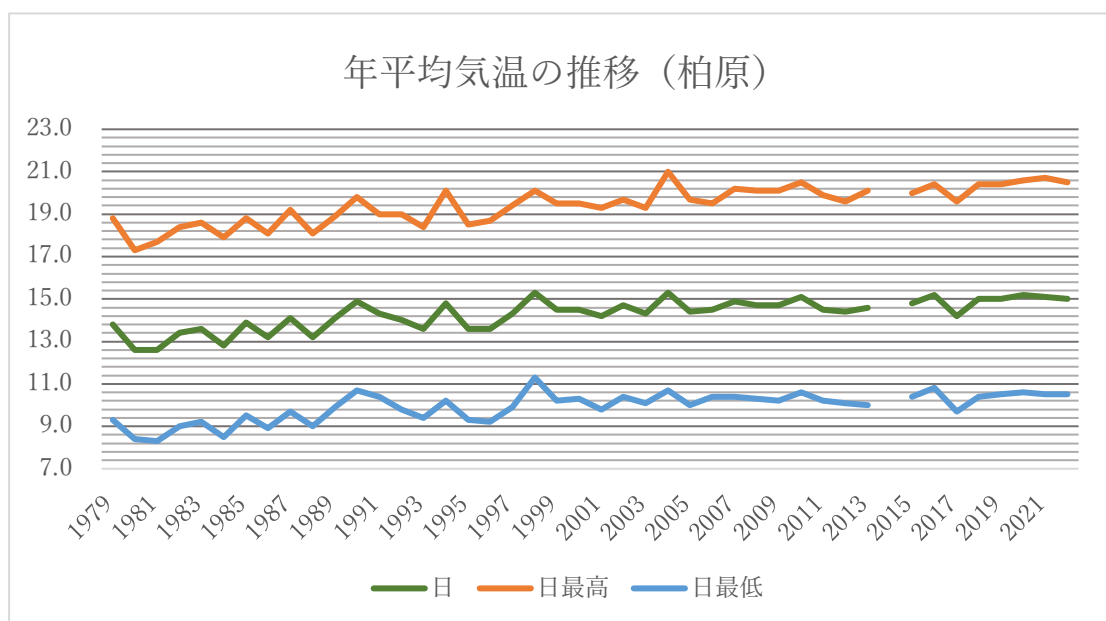
地球温暖化と言われて久しいですが、丹波地域で気象庁の観測地点(アメダス:自動気象データ収集システム)がある丹波市柏原の年平均気温の推移は<グラフ1>とおりです。

通年観測が始まった1979年(昭和54年)から2022年(令和4年)までの年間の平均気温は14.3℃ですが、観測を始めた1979年からの10年間の平均と直近2022年までの10年間の平均気温を比較すると13.3℃から14.9℃と40年あまりの間に1.6℃上昇しています。

この傾向は年平均の日最高気温及び日最低気温も同じ傾向にあります。<表1>

※ 日最高(低)気温:1日のうちの最高(低)気温を1ヶ月で平均して月平均とし、月平均値を年平均にした値

<グラフ1>



※ 2014年は欠測期間があるため除外

10年間の平均気温の比較<表1>

《柏原》

期 間	年平均気温	年平均最高気温	年平均最低気温
1979～2022年の平均※	14.3℃	20.0℃	10.1℃
1979～1988年の平均	13.3℃	18.3℃	9.0℃
2013～2022年の平均※	14.9℃	20.3℃	10.4℃

※ 2014年は欠測期間があるため除外

《神戸》

期 間	年平均気温	年平均最高気温	年平均最低気温
1979～2022 年の平均	16.6℃	20.3℃	13.3℃
1979～1988 年の平均	15.5℃	19.5℃	12.0℃
2013～2022 年の平均	17.3℃	20.8℃	14.3℃

《豊岡》

期 間	年平均気温	年平均最高気温	年平均最低気温
1979～2022 年の平均	14.5℃	19.9℃	10.3℃
1979～1988 年の平均	13.7℃	19.0℃	9.5℃
2013～2022 年の平均	15.0℃	20.5℃	10.9℃

なお、同期間の10年間の平均気温について、兵庫県南部の神戸市及び北部の豊岡市でも、1.8℃及び1.3℃上昇しています。

(気象庁ホームページの気温データを元に作成)

会員が感じた地球温暖化の影響

地球温暖化の影響と考えられる身近な自然の変化について、会員の皆様にご意見を
お願いしたところ、多くのご意見が寄せられました。これらのご意見から、改めて地球温暖
化・気候変動が生物多様性にも影響を与えていることがうかがえます。

地球温暖化・気候変動が生物多様性への悪影響につながらないようにするためには地
球規模での対策が必要となりますが、一人一人の取り組みの積み重ねも大切になります。
多くの方が、地球温暖化・気候変動について考える一助になれば幸いです。

項 目	内 容
昆 虫	最近 地球温暖化の影響と考えられる昆虫として以前から分布を広げたと 考えられる モンキアゲハ クマゼミ 最近増えてきた。 ナガサキアゲ ハやインガケチョウ クロコノマチョウ 特に著しいのはツマグロヒョウ モンである。 キマダラカメムシは初めて成虫を捕獲（2023年10月） 地球温暖化かどうか定かではないがアオマツムシ タイワンウチワヤンマ も20年？前からと思う。
	ニイニイゼミの初鳴きが早くなった。
	クマゼミが3年前から鳴くようになった。
	アブラゼミが少なくなったように思う。
	夏にクマゼミの鳴き声をよく耳にするようになり、最近ではうるさく感じ るほどの合唱となってきている。
	ツマグロヒョウモン、クマゼミが増えた。
	オオムラサキの羽化が、1週間から10日ほど早くなっている。 （6月10日前後から6月1日前後に）
	越冬幼虫が目覚め、エノキに登る時期が早くなってきている。 （3月20日前後から、3月10日前後に）
	ハンミョウが近くに神社境内で見られなくなった（子どもの頃見ていた が）。また、アリジゴク（ウスバカゲロウ幼虫）も。
	秋の虫の鳴き始めが早くなったように思う。
	アオハダトンボが激減した。
	納屋など室内で越冬して作物被害が増えてきた。
	生態系の中で食草の関係で影響が出ているのではと心配しています。 植物を頼りに生きている昆虫たち、さらにその昆虫を食べる野鳥などにも 影響が出てくるのではと思っています。
	令和5年はカメムシを見かけないと思っていたら、10月末頃から大量に 発生して捕獲に追われた。クマゼミは未だ北上していないと思う。

会員が感じた地球温暖化の影響

項目	内容
植 物	<p>桜の開花は、丹波篠山市においても早まる傾向にある。市では、篠山城跡の入り口にある桜の基準木に5輪以上の花が咲くと開花としている。</p> <p>1980年代の平均開花日は、4月5日ごろであったが、90年代に4月3日、2000年代に4月1日、2010年代には3月31日となっている。</p> <p>桜の開花が早くなり、梅の開花が遅くなり、梅の花と桜の花が同時に見られる。</p> <p>サクラ（ソメイヨシノ）、コバノミツバツツジなどがほぼ同時期に咲くようになってきた。</p> <p>桜の開花は間違いなく早くなっている。川代公園でさくらまつりを例年開催しているが、4月の開催では散り始めている年もある。</p> <p>サクラが11～12月頃に咲くことが多くなった。</p> <p>ウメ、サクラ、モモ、タムシバ、ヤマブキなどの春の植物の開花が早くなってきている。</p> <p>コバノミツバツツジの開花がとても早くなったと感じる。</p> <p>ここ数年前からサギソウの栽培が非常に難しい状況になってきています。環境の変化により開花時期が年々早くなり、また、病気にもかかりやすく球根の収穫が極端に減少し、近年では東北・北海道等の球根で栽培講習会を開いていますが、開花時期が6月下旬から7月中旬となり今後の保存活動に悪い状況となっています。</p> <p>木犀の花の開花時期が遅れ短期間になってきた。</p> <p>ヒガンバナの開花が、今年（令和5年）は遅く感じた。（これまでは彼岸にはちゃんと間に合ったが）</p> <p>乾燥と高熱のためなのか、紅（黄）葉する前に葉が落ちる。</p> <p>オオキンケイギクの駆除作業を行った際、開花の時期が早くなっているように感じた。</p> <p>オオキンケイギクを道端でよく見るようになった（駆除もされているが）</p> <p>私たちが子供の頃、田んぼや道端で見ていた植物たちとは異なり、多くの外来植物が増えてきました。開花の時期が早まる年があります。</p> <p>アカメガシワをよく見るようになった。</p> <p>稲について、日照りが続き高温障害によるコメの収穫量の低下や品質の悪化を感じる。</p> <p>稲の開花時期に高温障害による白濁米が増え、一等米が減ってきた。</p> <p>雨が降らず水があてられなくてイネが枯れるのを見かけるようになった。</p> <p>黒枝豆について、日照りが続き、収穫の遅れや品質の悪化を感じる。</p> <p>黒豆のさや付き比率が低下し成熟するのが遅くなった。</p> <p>今夏（令和5年）の異常高温の影響で黒枝豆が不作となり、ナスビが11月中旬まで収穫できるといった珍現象があった。</p> <p>降雨状況の変化に地域差が著しく、地形変化から湿地性植物の生育（枯死等）に変化が見られる。</p> <p>雑草の伸び（成長）が激しい。</p>

会員が感じた地球温暖化の影響

項目	内容
水生生物	加古川水系、由良川水系とも淡水魚の種類、量とも、かなり減ってきており、種類によっては少ないまま局地化しており、その後の絶滅へつながるのではないかと危惧される。
	近年の目まぐるしい気象変動（豪雨、渇水等）により、水生生物の生息地における土砂流失や枯れ水など発生し、個体の好ましい生息地の維持が難しくなっている。また、ナガレホトケドジョウの探索を通じてみて、丹波地域の沢も土砂流入、倒木など著しく、防災にも影響するのではないかと心配される。
	佐治川にカマツカ（コイ科）を見かけなくなった。
	河川設計に原因があるのかもしれませんが、小型化と多様性がなくなってきたのではないのでしょうか。魚を捕るサギやカワウが目立ちます。

項目	内容
気象	夏の最高気温の上昇、冬の最低気温の低下が異常。
	春・秋が短く、日本の四季が夏と冬だけの二季になっていくのでは・・・
	夏の暑さや集中的な雨に気候変動を実感するようになってきました。

項目	内容
その他	地球温暖化の影響を考えるには、継続的な観察が必要だと思います。進行は目に見えないところで進んでいるのかもしれませんが。私たちが体で感じるようになってきたら、すでに遅いのかもかもしれませんね。確信のあるデータが無くてすみません。
	今回、記載の「地球温暖化の影響について」の直接的なコメントではないが、丹波地域の一部の地域では、田畑の耕作放棄地が多くなっていると感じている。この耕作放棄地の放置が、今後の生物多様性や環境への影響がないか、不安に感じている。

危惧される特定外来生物について

1 特定外来生物とは

「生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物への対応」（平成 22 年 3 月兵庫県）によれば、外来生物を次のように定義しています。

人間の移動や物流の活発化に伴い、自分の力では到達することができない地域に侵入してしまう生物が増えています。このような、もともとその地域に生息・生育していなかったが人間活動によって他地域から入ってきた生物のことを外来生物といいます。

外来生物の中にも、ペット、釣りなどのレジャー用、観賞用や食用などとして、人間が意図的に持ち込んだものや貨物や船・航空機などに紛れて偶発的に運ばれてきたものがありますが、その中には、農作物や家畜、ペットのように私たちの生活に欠かせない一方で、地域の自然環境などに大きな影響を与えるものもいます。

特に、生態系の攪乱を引き起こし、日本の生物多様性に悪影響を与える外来生物を侵略的外来種といいます。

また、外来生物にも国外から持ち込まれたものと国内でもともと存在していない地域に他の国内の地域から持ち込まれたものがあり、前者を国外外来種、後者を国内外来種と区分しています。

以上の外来生物について、いくつかに分けられますが、特定外来生物とは、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により指定された問題を引き起こす海外起源の外来生物をいいます。

この法律は、特定外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命・身体の保護、農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とした法律で、指定された特定外来生物の飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いを規制し、特定外来生物の防除等を規定しています。

令和 5 年 9 月 1 日現在、指定された特定外来生物は、159 種類あります。

哺乳類 25 種類、鳥類 7 種類、爬虫類 22 種類、両生類 15 種類、魚類 26 種類、昆虫類 27 種類、甲殻類 6 種類、クモ・サソリ類 7 種類、軟体動物等 5 種類、植物 19 種類

2 兵庫県で確認された主な特定外来生物

兵庫県内で確認されている主なものや最近、注目されている特定外来生物の一部を紹介します。

(1) アルゼンチンアリ



アルゼンチンアリ
(環境省提供)

原産地	南アメリカ大陸パラナ川流域
特 徴	<p>体長は約 2.5 mm、色は褐色。行列をつくって活動し、動きが非常に速い。</p> <p>女王アリは条件が良いと 1 日に約 60 個卵を産み、働きアリを約 120 匹生産(夏季だと約 70 匹)するごとに、新たな女王アリ 1 匹を生産する。</p> <p>在来のアリと異なり、10℃以下になると活動は鈍くなるが、冬眠せず 1 年中活動する。</p> <p>3 月下旬頃より繁殖活動が盛んになり、9 月から 10 月初旬にかけて個体密度が最大となる。</p>
主な被害	<p>人家のリビングなどに侵入して不快感を与える。</p> <p>台所等の食べ物に群がる。</p> <p>布団に侵入し、体中を這い回ったり噛んだりして、睡眠障害を引き起こす。</p> <p>エアコンの室外機やインターフォン、防犯カメラなどの電子機器に群がり故障させる。</p> <p>農作物においては、芽や蕾を傷つけたり、海外ではキャベツやトウモロコシの種子の食害例がある。</p> <p>また、農業害虫のアブラムシ類やカイガラムシ類が分泌する甘露を好むことから、これらの農業害虫を天敵から保護するため、農作物への被害を助長する例も海外では報告されている。</p>
定着状況等	県内では、神戸市や伊丹市での生息を確認

(2) クビアカツヤカミキリ



クビアカツヤカミキリ(兵庫県提供)



クビアカツヤカミキリのフラス
(兵庫県提供)

原産地	南ロシア、モンゴル、中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム
特 徴	<p>体長は 2～4 cm (触角は含まない)。</p> <p>胸部(クビのような部分)が赤色、全体は少し青みがかった黒色、ツヤがある。</p> <p>成虫は、5 月下旬から 8 月にかけて見られる。フラス(※)は 3 月下旬から 11 月にかけて、サクラなどの木の根元などで見つかることが多い。</p>
主な被害	<p>幼虫は生きている樹に寄生し、樹の内部を食い荒らす。</p> <p>被害が進行すると、木は弱り、枯死するため、最後は伐倒する。</p> <p>果樹園では農業被害、街路樹では景観被害、倒木による人身被害に繋がる。</p>

	被害樹木は、サクラ、ウメ、モモ、スモモ、ハナモモ、アンズ、サクランボ等 バラ科の樹木。
定着状況等	県内では、令和4年6月に、明石市で初めて成虫が発見され、その後、神戸市や芦屋市、西宮市でも成虫・フラスが確認されている。

※フラス…木くずと幼虫が排出するフンが混ざったもの

(3) ナガエツルノゲイトウ



ナガエツルノゲイトウ(兵庫県提供)

原産地	南アメリカ原産、北アメリカ、アジア、オセアニア、アフリカ
特 徴	<p>水辺の湿った環境に生える多年草の水草であるが、陸域でも生える。</p> <p>茎はストローのような中空でポキポキと簡単に折れる。</p> <p>地上・水上で枝分かれしながら茎を伸ばし、茎は絡まりあって、水上ではマット状の群落を形成する。</p> <p>4～10月に白い球状の花が咲く。茎、根の切片・断片から再生可能で2mmの根から再生した例がある。特に、日当たりの良い肥沃な条件下では、急激に増殖する。一度繁殖すると根絶は非常に困難。</p>
主な被害	<p>【洪水被害】 繁殖したナガエツルノゲイトウが大雨で大量に流れると水流の阻害や、排水口を塞ぎ、洪水の発生が懸念される。</p> <p>【農業被害】 田んぼに入り爆発的に繁殖するとイネを覆い収穫できなくなる。畑も同様に繁殖する。特に農耕機に付いて広がるおそれがある。</p> <p>【生態系被害】 ため池等の水面を覆いつくすため、水質が悪化する。また在来生物の生育環境と競合する等、悪影響を及ぼす。</p>
取扱上の注意	水辺の湿った環境に生える多年草の水草だが、陸域でも生える。茎、根の切片・断片から再生可能で、2mmの根から再生した例もあるほど、繁殖力が強い。また、茎はストローのような中空でポキポキ簡単に折れるが、拡散の原因になるので折ってはいけない。
定着状況等	県内では阪神地域、東播磨地域、淡路地域のため池、河川で確認

(4) アカミミガメ・アメリカザリガニ



アカミミガメ(環境省提供)



アメリカザリガニ(環境省提供)

令和5年6月1日より、アカミミガメ・アメリカザリガニは条件付特定外来生物に指定されました。

一般家庭でペットとして飼育するものは、これまでどおり飼育できますが、野外に放出したり逃がしたりすることは特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律で禁止されています。

飼育にあたっては、許可や申請は不要ですが、寿命を迎える最後まで大切に飼育してください。

飼いつづけることができなくなった場合は、決して野外に放出せず、飼いつづけることが出来る友人・知人等に譲渡してください。

なお、環境省では、アカミミガメ・アメリカザリガニの規制内容や飼育等に関する相談ダイヤルを開設しています。

【ナビダイヤル】0570-013-110 【IP電話等の場合】06-7739-7899

受付時間：午前9時～午後5時(12/29～1/3を除く)

※ 通話料金は発信者負担

※ 終了時期未定

3 特定外来生物の防除

(1) 定着前の外来生物への対応

広範囲に定着した外来生物を防除することは非常に困難になるため、外来生物の定着を予防することが重要になります。

また、既に侵入してしまった場合は、侵入初期段階で防除することが最も効果的でコストも少なくて済みます。

置き換えると火災における初期消火が重要なことと同じです。燃え始めは少ない労力で消火でき、被害も小さく済みますが、燃え広がるにつれ、消火は困難になっていき、被害も加速度的に大きくなります。

火災の場合は、“火の用心・初期消火”が重要なように、外来生物対策においても“早期発見・早期防除”が重要になります。

<外来生物予防3原則>

- ① 入れない：悪影響を及ぼすかもしれない外来生物を安易に国内、県内に入れない
- ② 捨てない：飼育している外来生物を野外に捨てない
- ③ 拡げない：すでに野外にいる外来生物を他地域に拡げない

(2) 定着した外来生物への対応



アライグマ(環境省提供)



ヌートリア(環境省提供)



オオキンケイギク(環境省提供)



オオクチバス(環境省提供)

アライグマ、ヌートリア、オオキンケイギクやブラックバスなど外来生物が定着している場合は、それぞれの主体が積極的に防除するなどの対応が必要になります。

防除する場合は、専門家の指導の下に実施してください。

なお、拡散やけがの恐れがあることから特定外来生物をきたまま許可無く運搬することはできないので、不用意に捕まえないでください。

<出典・参考>

- ・ 特定外来生物の詳細は、環境省のホームページで「日本の外来種対策」(<https://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>)を参照してください。
- ・ 兵庫県の外来生物については、ひょうごの環境のホームページで「外来生物」(https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_290)を参照してください。

丹波地域環境パートナーシップ会議活動状況

○ 設 立

平成 25 年(2013 年)11 月 21 日

1 総 会

年 度	月 日	会 場	備 考
平成 25	11.21	丹波の森公苑(丹波市)	設立総会
平成 26	11.20	柏原住民センター(丹波市)	
平成 27	11.21	丹南健康福祉センター(丹波篠山市)	
平成 28	11.19	丹波の森公苑(丹波市)	
平成 29	11.11	四季の森生涯学習センター(丹波篠山市)	
平成 30	11.11	丹波の森公苑(丹波市)	
令和元	11.9	春日住民センター(丹波市)	
令和2	11.7	四季の森生涯学習センター(丹波篠山市)	
令和3	6.18	書 面 開 催	
令和4	9.3	丹波の森公苑(丹波市)	
令和5	9.2	山南住民センター(丹波市)	

2 活動報告団体

年 度	月 日	活動報告団体	ホスターセッション
平成 25	11.21	—	12 団体
平成 26	11.20	・鴨庄オオムラサキ飼育の会 ・丹波篠山自然塾むしクラブ ・姫ボタルまつり実行委員会	—
平成 27	11.21	・篠山市サギソウ保存会 ・丹波の森公苑活動支援部森づくり課	9 団体
平成 28	11.19	・篠山自然の会 ・丹波地域のホトケドジョウを守る会	12 団体
平成 29	11.11	・丹波野鳥の会 ・兵庫丹波オオムラサキの会	5 団体
平成 30	11.11	・妙高山のクリンソウを守る会	7 団体
令和元	11.9	・丹波自然友の会	8 団体
令和2	11.7	・丹波篠山市地球温暖化防止活動推進連絡会	8 団体
令和3	—	【コロナウイルス感染症のため実施せず】	—
令和4	9.3	・丹波市地球温暖化防止活動推進連絡会	11 団体
令和5	9.2	・丹波佐治川自然の会	10 団体

3 講習会等

年 度	月 日	内 容
平成 25	11.21	記念講演会：ネットワークで守ろう！丹波地域の豊かな自然 〔兵庫県立人と自然の博物館館長 中瀬 勲 氏〕
平成 26	9.27	講演会：丹波地域の生物多様性の保全～外来種だけでなく在来種にも脅かされる丹波の自然 〔兵庫県立大学名誉教授 服部 保 氏〕
	11.20	講演会：昆虫を通してみる丹波の地域環境 〔兵庫県立人と自然の博物館主任研究員 八木 剛 氏〕
平成 27	11.21	講演会：アライグマと丹波・篠山の環境 〔NPO 法人大山捕獲隊代表 西牧 正美 氏〕
平成 28	11.19	講演会：兵庫県におけるシカによる森林生態系の現状と対策 〔兵庫県立大学准教授 藤木 大介 氏〕
令和4	9.3	特定外来生物防除講習会 ①オオキンケイギク防除の取り組みについて 〔丹波篠山市農村環境課主事 山口 達成 氏〕 ②アライグマ等野生生物の防除について 〔兵庫県森林動物研究センター森林動物専門員 野口 和人 氏〕
	11.10	外来生物セミナー 生物多様性と外来種講習会 in 丹波 ①生物多様性の保全と外来種の危機 〔国立環境研究所室長 五箇 公一 氏〕 ②森林動物研究センターにおける外来哺乳類の研究 〔兵庫県森林動物研究センター研究部長 横山 真弓 氏〕 ③篠山城における外来種の危機と取り組み 〔(株)自然回復代表取締役 谷口 真理 氏〕 ④パネルディスカッション・意見交換 〔兵庫県立人と自然の博物館主任研究員 三橋 弘宗 氏〕
令和5	9.2	講演会：丹波の注目したい自然と牧野富太郎の足跡 〔丹波自然の会元会長 樋口 清一 氏〕
	1.19	10周年記念シンポジウム 里山と生物多様性保全と木質バイオマスエネルギーの活用を考える ①里山保全から考える生物多様性と森の利活用 〔兵庫県立大学名誉教授 服部 保 氏〕 ②子どもの自然体験を通して 〔丹波市環境課 地域おこし隊 尾形 真依子 氏〕 ③丹波の里山とオオムラサキ〔篠山自然の会会長 角谷 慶治 氏〕 ④木質チップのバイオマス発電への活用 〔兵庫パルプ(株)林材資材部林材課長 臼井 浩平 氏〕 ⑤里山を守り育てるために私たちに出来ること 〔兵庫県森林動物研究センター役付専門員 尾畑 俊彦 氏〕

		⑥未来への人づくり～木の駅 Project による木質バイオマス利用促進 〔NPO 法人バイオマス丹波篠山理事長 高橋 隆治 氏〕
		⑦パネルディスカッション・意見交換 〔兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター部長 山瀬 敬太郎 氏〕

※ []は、講師・発表者・コーディネータ等

4 その他

年度	月 日	内 容
平成 26	9.27	丹波篠山エコツアー
平成 27	9.22	150 人の昆虫大作戦
平成 28	8.6	エコツアー「丹波の森生き物探し」
平成 29	11.11	エコバスツアー「篠山市の名木・巨木めぐり」
平成 30	11.11	エコバスツアー「丹波市の名木・巨木めぐり」
令和元	11.9	エコバスツアー「丹波市の名木・巨木めぐり」
令和2	11.7	エコバスツアー「丹波篠山市の名木・巨木めぐり」
令和3	8.18	「水上回廊-生態系の交差点-」生物観察ツアー【中止】
	11.13	「中央分水界をゆく」ハイキング
令和4	10.30	2022 丹波の森フェスティバル出展
令和5	8.4	恐竜化石 & 里山体験ツアー(サスティナブルツアー)
	10.29	2023 丹波の森フェスティバル出展



H29 エコバスツアー
日置の裸榎(丹波篠山市)



R3 ハイキング
城山(丹波市)

梶 自 然 愛 好 会

所在地：〒669-3154
丹波市山南町梶 437-2
代表者：藤原 利正
設立：平成5年
電話番号：090-5041-9962

H15年度には、100名を超える会員で活動の盛期を迎えたが、現在は会員の高齢化により、会員対象の活動が不可となり、会員名簿を解消し、下記の活動に限定している。

※ 現在は代表のみを置き、活動要員は必要に応じて参集。

《現在の活動》

- ① 野鳥棲息調査 (H17年度より継続)
 - 山南地域の和田地区(南東部)・小川地区(南西部)
 - 移動調査：約18km/回・約5時間/回
 - 年間調査回数：52回(原則金曜日)
- ② 水生生物捕獲調査(魚類中心) (H12年度より継続)
 - 山南地域中心(年10回程度)
- ③ 小学校ゲストティチャー(1~3校) (H12年度より継続)
- ④ トライやる・ウィーク受け入れ(1~2校) (H13年度より継続)
- ⑤ 依頼により他団体の活動協力
- ⑥ 魚類を主体に地域の水生生物飼育(啓蒙用)
- ⑦ オオムラサキ・ジャコウアゲハ・キアゲハ他飼育(啓蒙用)
- ⑧ 丹波地域外の関連団体との交流 (H15年度より継続)

【R4年度 野鳥調査結果報告】

【丹波市 山南地域】

◎ 調査地域概図	P 1
◎ 調査結果推移表	P 2~11
◎ 調査時の気象状況・調査結果	P 12~22
◎ 調査結果総括	P 23~24

※ 調査結果詳細は、印刷及び従本省略。
(必要な方は、藤原 利正まで 090-5041-9962)

H15年3月末日
梶 自然愛好会



上久下恐竜の里づくり部会

所在地：〒669-3102

丹波市山南町下滝 205

上久下地域づくりセンター

代表者：常岡 芳朗

設立：平成 20 年

電話番号：0795-78-0001

- 2010年から始まった、パナソニックエコリレージャパンと上久下地域住民との協働クリーン作業は、毎年3月に丹波竜の里公園や元気村かみくげ周辺の竹藪整備作業を続けてきました。

コロナ禍の2年間は中止しましたが、今年で12回を数えます。10回記念の2019年には、丹波市長からの感謝状贈呈や記念植樹を実施しました。毎回の参加人数は60~80人です。

- 自然学校を利用する小学生を対象にして、化石発掘体験を通じた環境学習プログラムを2015年から継続して、2022年までの8年間で延べ95校、約6000人の児童に参加してもらいました。(直近の3年間はコロナ禍で少人数校に制限して実施)

しかし、丹波少年自然の家が閉鎖となり、2023年度からの受入れは残念ながら無くなりました。

一般客を対象にした化石発掘体験は、土・日・祝日に実施しており、人気があります。



篠山市サギソウ保存会

代表者：谷口次男
設立：平成3年頃

サギソウは旧今田町の町花で、保存と啓発活動を目的に約30年前に保存会が生まれ、今日まで栽培講習や自生地の整備などを中心に会員相互間の意識の向上に努めています。

しかし、近年会員の減少に伴い日常活動が厳しい状況となっていますが、平成26年に「地域環境保全功労者」して環境大臣表彰を受け、この彰を励みに年間活動として自生地の整備・栽培講習会・段ボール播種講習会・自生地観察・親子サギソウ観察・サギソウ展示会等の活動を行っています。



篠山自然の会

所在地：〒669-2352

丹波篠山市西浜谷 388-4

代表者：角谷 慶治

設立：平成12年

電話番号：079-552-1203

メール：k.keiji@ares.eonet.ne.jp

篠山自然の会は、毎月例会を開催しています。活動は丹波地域の自然探索が中心ですが、県内各地、さらに年1回は1泊で信州や四国などに遠征をしています。

また、地元が大切だということで、市内旧小学校区19地区を順次探訪し、すでに2巡目に入っています。例会では、草花、樹木、鳥、魚、両生類・爬虫類、昆虫、地層・岩石・化石など自然全般にわたり、ネイチャーハイキング・トレッキングを行っています。

ここ10年を振り返ると、温暖化の影響も見られますが、新たな外来動植物の侵入がよく目立つようになってきています。ブタナ、ホソバウンナン、ニワウルシ、イタチハギ、アオマツムシなど近年よく見かけるようになってきました。

発足当時の会員が多く、高齢化も進んでいますが、皆さん元気で氷ノ山や剣山、信州の山々に挑戦しています。月1回の例会は、情報交換の場でもあり、その時間が貴重であり魅力でもあります。



住友ゴム工業株式会社 市島工場

所在地：〒669-4323

丹波市市島町梶原5

代表者：五十川 一彦（工場長）

設立：平成8年

電話番号：0795-85-3000

ホームページ：https://www.srigroup.co.jp/

阪神・淡路大震災の翌年 1996 年に丹波市市島町で操業開始後、地域に根差す活動を模索し、試行錯誤しながら活動を進めてまいりました。構内緑地について、生物多様性を重視した混合林から混交林に作り替えを行った他、絶滅危惧種の育成保護活動等の活動が評価され、2022 年には「全国みどりの工場大賞」最高位である内閣総理大臣賞を受賞する事が出来ました。

丹波の森公苑様の意見を取り入れたオオムラサキ生育事業では、近隣保育園児を対象とした観察会を毎年開催しており、氷上町葛野地区ではオオムラサキを野生化させるためにエノキの植樹活動も行っています。

また、丹波市内に生息しているホトケドジョウ個体保護活動や生息地環境保全なども積極的に活動を進めています。

今後も地域に貢献できる活動を中心に進めてまいります。



多紀連山のクリンソウを守る会

所在地：〒669-2303

丹波篠山市瀬利 92-3 みたけ会館内

代表者：細見 隆夫

設立：平成 21 年

電話番号：090-3702-2751（津田）

メール：Phkk56770@iris.eonet.ne.jp

2007年に丹波篠山市御嶽でクリンソウ大群落を発見して、公開か・非公開かの議論の末、公開と決め、2009年に多紀連山のクリンソウを守る会を設立した。

爾来、クリンソウ群落を自然のまま、見守ることをモットーに、人的被害を防ぐため、観察路を設置し自生地内に立ち入らないよう工夫し、「持ち出さない、園芸種などを持ち込まない」をスローガンにしている。また、定点観察、個体調査を実施して、クリンソウの生育変化を記録している。獣害はそれほどひどくないが、昨今の地球温暖化による豪雨のため、自生地内の水路が深くえぐられ、生育に影響が生じている。

今後も引き続き、クリンソウを見守っていきたいが、会員の高齢化が進み後継者育成が課題である。（自生地へ山道を杭・ロープを背負い約1時間半登らなければならずキツイ。）



丹波篠山自然塾 むしクラブ

所在地：〒669-2605

丹波篠山市藤坂 862

代表者：大塚 剛二

設立：平成 23 年

電話番号：079-558-0178

ホームページ：http://gootuka.sakura.ne.jp/sizen/

メール：gootuka@iris.eonet.ne.jp

昆虫を楽しもう 野外に出よう 昆虫少年少女を育み 昆虫に興味のある人々とつながり地域の自然を知り、互いに向上しながら同好の親睦を増すことを目的に発足して12年。現在の丹波地方の昆虫相の生息状況をみんなで調べた。

たくさんの会員の努力により蝶をはじめトンボ・ハチ・甲虫類など貴重なデータを得ることができた。蝶では64種確認、中にはイシガケチョウやクロコノマチョウの北上、ミスジチョウ、オオムラサキ、ツマグロキチョウ、トンボ類ではハッチョウトンボ、モートンイトトンボ、ムカシトンボ、ムカシヤンマなどの危惧種の確認など。

不思議に思われるのはスジグロシロチョウの減少は著しく、最近数年は確認できていない。甲虫類ではフタコブルリハナカミキリ、キベリハムシ、クロカナブンやその他オオキンカメムシなども確認できた。



丹波篠山市地球温暖化防止活動推進連絡会

所在地：〒669-2737

丹波篠山市東木之部 164

代表者：谷口 功

設立：平成14年

電話番号：079-593-0226

メール：tyonbotani@iris.eonet.ne.jp

設立子供会当時はメンバーも多く啓発活動をどうするか定例会議も月一で活発でした。

啓発道具も手作りで紙芝居、大型絵本、人形劇と進化し続けていきました。

啓発の営業も活発でした。学校、自治会、老人会、保護者会、同窓会などへ積極的に出掛けて行きました。

当初は誰も教えてくれる人もなし、何をどうしていいか全く分からず手探りの状態でした。若かった、メンバーも温暖化防止活動推進の必要性を強く感じ燃えていた。知恵も出し合った。出前環境講座のシナリオも作った。県の出前環境講座に登録もしました。その結果南は淡路の洲本、北は豊岡市、東は加古川市と広い範囲で行動しました。

ここ5年の間にメンバーも激減しました。

追い打ちをかけるようにコロナ禍で3年。温暖化は待ったなし。

脱炭素社会に向け、一人ひとりが意識を強く持ち、出来ることをしっかり実施すべきです。一人の千歩より千人の一步を望みます。

「ストップ温暖化」



丹波佐治川自然の会

所在地：〒669-3801

丹波市青垣町東芦田 928-2

代表者：長井 克己

設立：平成18年

電話番号：0795-87-0103

メール：nagai-k@amber.plala.or.jp

川が好き・棲んでいる魚も好き・そこに根付いた「バイカモ」も好きという仲間7人が集まって「丹波佐治川自然の会」を2006年（平成18年）7月1日に設立した。

河川環境の指標ともいわれる佐治川の流水中に生える多年草「バイカモ」の保護を中心に活動をしている。

そして、佐治川に棲む水生昆虫の生息状況を調べている。

バイカモは水のきれいさと冷水域に自生する植物の指標でもある。が、最近の豪雨や日照り等の気候変動の結果、川の水量の激変や流路の変化などが影響してバイカモの自生地が脅かされつつある。

それでも、バイカモの花に飛び交うアオハダトンボの乱舞を期待し活動を続けている。



丹波自然友の会

所在地：〒669-3301

丹波市柏原町南多田 873-2

代表者：梅垣 守明

設立：昭和43年

電話番号：0795-72-0180

メール：umegaki@m.gmob.jp

丹波自然友の会は、昭和43年、当時の氷上郡（現丹波市）の教員の研究グループを母体として発足しました。発足当時より、毎月1回（第3土曜日）の例会の実施、会報「丹波の自然」の発行を行ってきました。本会が発足以来、半世紀を超えて活動を続けてこられたのは、素晴らしい先人のリーダーシップはもとより、後に続いた先輩方の努力の賜物です。

本会は「自然を愛し 自然に学ぶ」を基本姿勢とし、丹波の自然環境や動植物の生態調査にかかる活動と記録を継続・充実させることを目的に、月1回の例会を積み重ねております。その内容は、セツブンソウ、イチリンソウなどのイチゲ類、クマガイソウ、トケンラン、クリンソウやカタクリの自生地の定期観察。加古川、佐治川の渡り鳥の調査。社寺林および公園等の樹木名札付け活動など多岐にわたっています。

そして、これらの活動は丹波地域の生物多様性の保全に寄与するとともに、『氷上回廊』と称するこの丹波の自然の豊かさ・不思議さ・素晴らしさを発見する取り組みにつながっています。



丹波市地球温暖化防止活動推進連絡会

所在地：〒669-4132

丹波市春日町野村 255

代表者：婦木 道子

設立：平成21年

電話番号：0795-74-1286

メール：masafumi1286@gmail.com

“地球温暖化対策の推進に関する法律”に基づき、兵庫県知事より委嘱を受け、地域の住民の方が省エネ行動や新エネ導入など地球温暖化防止のための実践に取り組んでいただけるよう、わかりやすく楽しい出前講座で地球温暖化防止のきっかけの手助けをボランティアで活動している。

主な活動は、地域住民の方や学校など環境学習教育の推進に協力し、紙芝居やパネルなどを使いわかりやすく、楽しい環境出前講座を行っている。

ここ2、3年は、出前講座ができない状況の中、たんばコミュニティエフエム（FM805）からの声かけをきっかけにラジオ放送で啓発活動をしている。

地域住民の方にごみの分別やリサイクルについて声かけやお願いをしている。

温暖化と防災は関係があるので、防災意識をもって地域の防災や自分でできる防災の必要性を話している。

近年活動員の減少で、十分な活動が出来ていません。

レジ袋有料化も買い物袋持参運動が大きく関係していると思う。小さい力が集まれば大きな力となり社会を動かします。



丹波地域のホトケドジョウを守る会

所在地：〒669-3309

丹波市柏原町柏原 5600

丹波の森公苑森づくり課内

代表者：山科 ゆみ子

設立：平成18年

電話番号：0795-72-5165

当会は、2006年に発足し、希少種であるホトケドジョウ（環境省レッドリスト：絶滅危惧IB類（EN）、兵庫県版レッドデータブック：Aランク）を守るため、毎月のフィールド調査と生息地の造成や保全、普及活動、小学校への出前講座などを行って続けてきました。

特に、毎月の調査では、ホトケドジョウの生育調査に加え、その他の生きものや自然風景などの記録と写真撮影を行っています。これら記録を積み重ねていくことで、個体数の増減や生息地の環境変化なども分かると考えています。

丹波地域の個体数は、僅かですが減ってきており何とか維持できるように努力しています。

近年の目まぐるしい気象変動（豪雨、湯水等）により、個体の適正な生息地の維持が課題となっています。

絶滅をしないよう危険分散地も設置を行っていますので、ホトケドジョウが生育できる環境などがありましたら情報提供をお願いいたします。

★みんなで守ろう 丹波の宝物 ホトケドジョウ★



丹波野鳥の会

所在地：〒669-3575

丹波市氷上町小野 622

代表者：梅津 節雄

設立：平成 12 年

電話番号：090-2288-8500

ホームページ：<https://blog.goo.ne.jp/torisan1424>

メール：tanbo1424@iris.eonet.ne.jp

丹波市と丹波篠山市で探鳥会を実施しているが、最近は主に丹波市内が多く、丹波市立南小学校付近の加古川がホームグラウンドです。

これまでの 10 年間の平均は、年 3 回実施しており、丹波新聞のイベントカレンダーにも掲載しているので、興味のある方はお気軽に参加してください。

野鳥の調査活動としては、

- ・ガンカモ類生息調査
- ・繁殖分布調査
- ・モニタリングサイト 1000
- ・カワウ調査

等を行っている。



一般社団法人 日本野外生活推進協会

所在地：〒669-4317

丹波市市島町上牧 691

代表者：高見 豊

設立：平成4年

電話番号：0795-85-2639

ホームページ：<http://mulle.sakura.ne.jp/>

メール：mulle@wonder.ocn.ne.jp

私たちの目指す幼児期からの環境教育「森のムッレ教室」の活動は全国に広がってまいりました。おかげさまで1992年7月26日設立から30年を迎えました。

2023年5月に創立30周年記念事業として「森のムッレ国際シンポジウム」を日本で開催したいと、長年お世話になってきたスウェーデンをはじめとする海外のリーダーの皆様を丹波にお招きし、記念式典や交流会を開催し、ともに30周年を祝っていただきました。

また、会場を奈良に移し全国からもリーダーの皆様にご集まっていただき「第7回森のムッレ国際シンポジウム」を開催いたしました。

次回開催国は2025年イギリスで開催することに決定しています。

今後とも丹波を日本のムッレ発祥の地とするこの活動を全国に広められるよう指導者の養成に努め「森のムッレ教室」と「リーダー養成講座」を積極的に開催し普及に努めていきたいと思っています。



NPO 法人バイオマス丹波篠山

所在地：〒669-2714

丹波篠山市垣屋 159-2

代表者：高橋 隆治

設立：平成21年

電話番号：079-593-1150

ホームページ：<https://www.bio-sasayama.com/>

メール：info.bmtsasayama@gmail.com

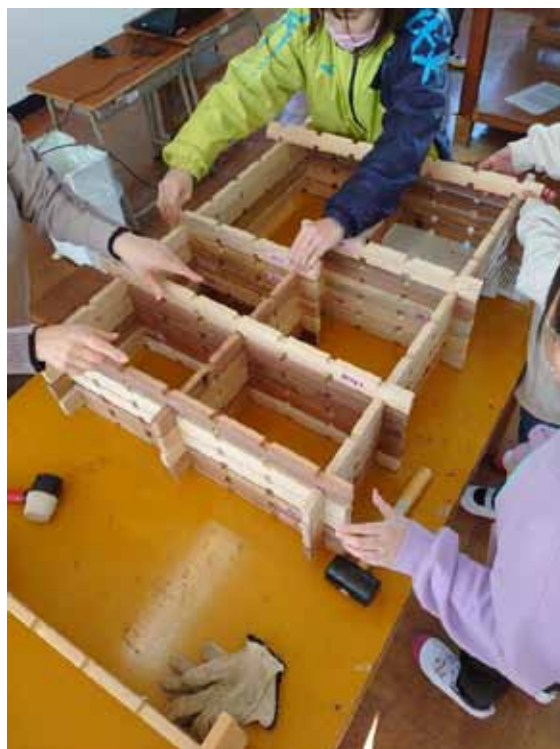
私達の活動の基本となる森林整備事業は、丹波篠山市内4地域での森林経営計画策定などと並行させながら、施業地を拡大させてきました。

搬出材を買い取ることで地域の森林整備を進めようとする「木の駅プロジェクト」は、一時は出材料が年間100トンを超えましたがその後伸び悩み、伐木・搬出体験講習会を開くなど、技術伝達に努めています。

木の駅の集材木などを利用した木質ペレット製造は、ペレットストーブ利用者の増加に加えて、温浴施設のペレットボイラー稼働に伴って需要が増し、耐用年数を経たペレット製造機に代わり新機を導入、生産量を上げています。

また、薪や木エキット「組手什(くでじゅう)」の販売促進に取り組むとともに新たに間伐材割り箸の製造販売も始めました。

その他、加古川の川上川下の流域連携による里山保全活動や、市内小学校での間伐体験・木工体験教育にも力を入れています。



姫ボタル祭り実行委員会

所在地：〒669-3154
 丹波市山南町梶 437-2
 代表者：藤原 利正
 設立：平成17年
 電話番号：090-5041-9962

H17年度に、県立人と自然の博物館の八木主任研究員の助言を得て、

- 梶自然愛好会 ○森のホタル調査隊 in 丹波
 - 漢方の里さんなんワクワク隊 ○薬草薬樹公園
 - さんなんふれあいボランティアガイドの会
 - 山南ステージスタッフ ○丹波農村ピオトープ連絡会
- 以上7団体の有志50名以上で実行委員会発足

※ 協力；ふるさと和田振興会・久下自治振興会・JA丹波ひかみ ほか

《活動内容》

- ① 日中の各種イベント ② オープニングコンサート
- ③ 姫ボタル鑑賞（マイクロバス3～6台ピストン輸送）
- ④ 全国ヒメボタルサミット2回開催

《活動成果》

- ① 10年間の延べ観察会；36回、延べ参加者21,550名
- ② 1都・1道・2府・12県・海外8ヶ国より参加

※ 現在は、代表のみを置き、活動要員は必要に応じて参集

- 薬草薬樹公園主催の『姫丹波』に協力（観察会場選定・ガイド）

丹波市 姫ボタルまつり10周年を終えて

【過去10年間の総括】

姫ボタルまつり実行委員会 藤原 利正

◎ 実行委員会構成団体

- 梶自然愛好会(森の虫調査隊in丹波)
- 漢方の里さんなんワクワク隊
- さんなんふれあいボランティアガイドの会
- 山南ステージスタッフ
- 丹波農村ピオトープ連絡会 以上の団体の有志約50名

※ 観察会時の助力

- ふるさと和田振興会・久下自治振興会
- 実行委員の知人・友人・JA丹波ひかみ・中学生・小学校教員

◎ 姫ボタルまつり実施概要

開催回	年度(年)	開催会回数	観覧者(名) 合計(観覧者+参加者)	観覧者(名)
第1回	18	6回	> 2,000 1,500	115
第2回	19	5回	> 2,500 2,060	77
第3回	20	4回	> 2,000 1,005	704
第4回	21	4回	> 2,500 1,297	129
第5回	22	4回	> 2,100 1,000	113
第6回	23	4回	> 2,000 1,082	117
第7回	24	4回	> 2,100 1,114	118
第8回	25	4回	> 2,250 818	127
第9回	26	5回	> 2,000 858	84
第10回	27	2回	> 2,000 452	63
合 計		36回 ※21回	>21,550 11,037	1,028

○ 第1回・第2回には、10種の種類のイベント実施。
 (資料による10種下り・ハルマキ・魚太郎・モリアオガエル・黒い蝶・等)
 ※ 目的: 甲虫に何を求めるかの把握。

○ 観察会時の※は、姫丹波プラン。
 (主催会家十薬草園員+ヒメボタル鑑賞)

○ 虫スタッフの参加は、観察会時のみで
 単独の一日。

兵庫丹波オオムラサキの会

所在地：〒669-3309

丹波市柏原町柏原 5600

丹波の森公苑森づくり課内

代表者：足立 隆昭

設立：平成 23 年

電話番号：0795-72-5169

ホームページ：<https://www.tanba-mori.or.jp/project/oomurasaki/>

メール：koen25@tanba-mori.or.jp

本会は「国蝶オオムラサキが舞う兵庫丹波地域の里山づくり」を目指して、2011年2月に結成されました。

会では①生息状況の調査 ②飼育・繁殖活動 ③里山環境学習の出前講座 ④生物多様性や里山環境保全などの啓発活動などを柱に活動しています。

10年以上にわたるオオムラサキの越冬幼虫調査により、丹波篠山市、丹波市両市で多くの生息地が確認されています。

また、丹波産のオオムラサキを飼育・繁殖させ、今では学校や公園、企業、遠くは海を越え、ウイーン・シェーンブルン動物園など30近くの施設が飼育しています。学校などへの出前講座は年間20校を超え、これまでに1万人以上の小学生が丹波地域の自然とオオムラサキについて学んでいます。

そして、放蝶会、絵画展、ゆめタウンで毎年開催している「丹波の生きもの大集合」などを通してオオムラサキの認知度もずいぶん上がってきています。



妙高山のクリンソウを守る会

所在地：〒669-4315

丹波市市島町喜多 1140-1

(鴨庄コミセン内)

代表者：細見 武憲

設立：平成 24 年

電話番号：0795-85-2457

メール：Kamonosyou-jichi@kvd.biglobe.ne.jp

丹波市の鴨庄地区でクリンソウの群生地が、発見されたのは、今から 13 年前、地区内の山野草愛好家の女性 2 名によってのことでした。地区内は観光資源も乏しく絶滅危惧のクリンソウを保護し保全・育成に努め地区活性化の一助とすべく「妙高山のクリンソウを守る会」を立ち上げ、毎年美しい花を咲かせております。

近年は新型コロナの影響で守る会での観察会は休んでおりますが、個人観察は出来るように群生地への林道は開放し多くの方々に楽しんでいただいております。

群生地の殆どが国有林野の中にあり、国の許可を得て、クリンソウの保護に努めており、群生地も年々拡大しております。クリンソウの開花時期は、春先の気象条件にもよりますが、通常は 5 月の一か月間です。

今後も妙高山のクリンソウを守る会の活性化を図り、群生地の保護拡大に努めます。

今年も美しい花を咲かしてくれることでしょう 皆様是非とも観賞にお越しください。



森自然環境保全友の会

所在地：丹波市青垣町小倉 566
代表者：足立 篤夫
設立：平成 25 年
電話番号：090-2013-9269(事務局)

春浅い木洩れ陽の中、野辺の目覚めを祝うが如く咲きほこる白華 — 早春の節分草を中心に、里山の保全・利活用と急傾斜地災害減災に向け、活動しています。

かつて節分草は、山裾の至る所に生きる「雑草」でしたが、戦後の雑木林伐採、杉檜植林による生育地減少で、今では絶滅危惧種の希少植物です。

毎年2月末開催の「せつぶん草まつり」は、遠くは奈良・岡山からなど、多くの方々に楽しんで頂いています。このように、節分草の温もりと里山の魅力を知って頂くことで、里山保全への理解と協力の輪が広がりつつあります。

- i) 節分草の植栽・育成
- ii) 里山の草刈り
- iii) 里山の保全に関する啓発活動
- iv) 若い未来世代の参加促進 など、

地域の皆様と共に、里山の生態系に最低限度の手を加え、豊かな自然を守りつつ、自由な想像力で軽やかに、持続可能な地域社会を創造出来ればと思っています。



丹波篠山市 環境みらい部 農村環境課

所在地：〒669-2397

丹波篠山市北新町41

電話番号：079-552-5013

ホームページ：<https://www.city.tambasasayama.lg.jp>

メール：kankyo_div@city.sasayama.hyogo.jp

丹波篠山市は、平成22年に環境基本条例を施行、第1次環境基本計画において、「源流のまち丹波篠山」の自然や生きもの、田園風景、快適な暮らしを再生し、「守る」ことの取り組みを進めてきました。

第2次環境基本計画では、「目指すまちの姿」実現に向けて、環境を「守り」、まちづくりに「活かす」ため、環境施策を推進しています。

また、平成25年5月に策定した『生物多様性ささやま戦略』に基づき、市による生物多様性や自然環境の保全・再生の取り組み、篠山城跡南掘のハス復活や外来生物防除、市民による生物多様性にかかる活動補助金の交付により支援しています。

そして『気候非常事態宣言』による積極的な気候変動対策の推進とともに、令和5年1月に表明した『ワクワク環境みらい都市宣言』により、これからも丹波篠山の魅力的な環境の創造と未来への継承に取り組んでまいります。



丹波市 生活環境部 環境課

所在地：〒669-3692

丹波市氷上町成松字甲賀1

電話番号：0795-82-1290

ホームページ：<https://www.city.tamba.lg.jp/>

メール：kankyuu@city.tamba.lg.jp

本市では、丹波市環境基本条例に基づき、丹波市環境基本計画（現在は第2次）を策定し、環境の保全と創造に関する施策を推進しています。

具体的には、氷上回廊ホームページのリニューアルや、地域おこし協力隊による環境教育を実施するなど、自然環境の意識啓発を行っています。

また、令和4年12月には丹波市ゼロカーボンシティ宣言を表明し、生物多様性に配慮しつつも脱炭素社会の実現を目指していくこととしています。

時代の流れはめまぐるしく、丹波市を取り巻く状況も10年前から大きく変わっています。

これからも、市民、事業者、市の連携のもと「丹波の森と農を活かし、人と自然が共生する源流のまち」を丹波市の目指すべき将来像として、施策に取り組みます。皆様のご支援とご協力をお願いします。



丹波市立青垣いきものふれあいの里

所在地：〒669-3833

丹波市青垣町山垣 2115-6

開設：平成7年

開館時間：9:00～17:00

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は、その翌平日）

12/29～1/3

電話番号：0795-88-0888

ホームページ：<https://www.city.tamba.lg.jp/site/ikimono/>

メール：aogaki-ikimono@city.tamba.lg.jp

青垣いきものふれあいの里は、身近に生息する動物、植物、昆虫などとのふれあいを通じて人々が自然に親しみ、これからの自然への理解を深め、環境保全の重要性を考える施設として、平成7年に開設され、本年度で29年目となりました。

ここ10年間に目を向けると、施設の老朽化が心配される中、令和3年度、4年度にはトイレの洋式化が完了、また本年度中に「エレベーターの改修工事」も完了予定と、ハード面での充実を図っています。

また、県立人と自然の博物館との「博博連携」や地元青垣の県立氷上西高等学校や青垣中学校、青垣小学校、認定こども園あおがきとの「博学連携」を進めています。

これからも、学校をはじめ関係団体と連携を深めながら、「ふるさと丹波の豊かな自然、地域、人々に誇りを持ち 豊かな自然を大切にする丹波の未来の創り手を育む」施設として今後ソフト面の充実を一層図りながら自然と人の共生をめざす取り組みをすすめていきます。



兵庫県立丹波の森公苑 事業推進部 森づくり課

所在地：〒669-3309

丹波市柏原町柏原 5600

開設：平成8年

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は、その翌平日）、
12/29～1/3

電話番号：0795-72-2127（代表）

0795-72-5165（直通）

ホームページ：<https://www.tanba-mori.or.jp/>

丹波の森公苑は、兵庫県立施設として1996年(平成8年)に整備されました。当苑では、人と自然が共生する丹波の森づくりを推進するため、以下の取り組みを行っています。

【森づくり課のこれまでの主な取り組み】

・環境学習推進事業

里山の自然や生き物について体験的に学んでいただくため、自らが日々の暮らしや生活行動を見直す機会をつくる環境学習を行っています。

・里山ボランティア養成事業

丹波の森公苑の里山を活動の場として、里山の自然や生き物とのふれあいを通じて、森づくりに参画していただける人材の育成を行っています。

・国蝶オオムラサキが舞う里山づくり

公苑内に飼育ケージを設置し、オオムラサキの飼育展示を行うとともに、兵庫丹波オオムラサキの会と連携し、地域でのオオムラサキの生息環境整備を促進しています。



兵庫県教育委員会 丹波教育事務所

所在地：〒669-2341

丹波篠山市郡家 451-2

電話番号：079-552-7486

ホームページ：https://www.hyogo-c.ed.jp/~tanba-bo/

メール：tanba@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県教育委員会では、兵庫型「体験教育」として、平成19年から小学校3年生で環境体験事業、昭和63年から小学校5年生で自然学校を実施しています。

環境体験学習では、地域の自然に出かけて行き、地域の人々等の協力を得ながら自然観察や栽培・飼育など五感を使って自然に触れ合う学習を行っています。自然学校では学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、日常では体験できない感動体験を4泊5日で行っています。

また、丹波地域はふるさと学習にも熱心に取り組んでおり、自然をテーマにした学習も各種団体の協力を仰ぎながら多くの小学校で行われています。

このように系統性を持たせた自然との触れ合いをきっかけとして、環境に関心をもち理解を深め、自然に対する豊かな感性を養います。また、命の大切さや命の連鎖を実感させ、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心を育てています。



兵庫県立ささやまの森公園

所在地：〒669-2512
丹波篠山市川原 511-1
開設：平成14年
開館時間：9:00～17:00
休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は、その翌平日）
12/29～1/3
電話番号：079-557-0045
ホームページ：<https://sasayamanomori.jp/>
メール：csr@sasayamanomori.jp

☆10年間の活動を振り返って

◇野鳥の公園として

人気の野鳥であるアカショウビンやサンコウチヨウに出会えるという情報がSNSの普及により広がった。

野鳥たちの春から夏の子育て期には多くの人が訪れ、賑わいを見せている。

◇植物保全エリア

植物保存エリアでは、これまでシカの食害で見られなくなったシュンラン、フジバカマ、ササユリなどの野草を移植し、再生保存に向けた下草狩りなどの整備をしてきた。

種類と数は徐々に植えてきており、特にササユリは毎年50株ほど花を咲かせ、来園者の目を楽しませている。

◇コロナ禍での来園者増

コロナ禍に、感染リスクの少ない野外への人出が増えたため、来園者が例年より増加した。

これを機に公園の知名度が上がり、リピーターが増えることを期待したい。



丹波篠山市 教育委員会 学校教育課

所在地：〒669-2397
丹波篠山市北新町41
電話番号：079-552-5653
ホームページ：https://www.city.tambasasayama.lg.jp/
soshikikarasagasu/gakkokyoikuka/index.html
メール：gakkokyoiku_div@city.sasayama.hyogo.jp

丹波市 教育委員会 学校教育課

所在地：〒669-3198
丹波市山南町谷川1110
電話番号：0795-70-0811
ホームページ：https://www.city.tamba.lg.jp/soshiki/
kyouiku-gakkoukyouiku/
メール：kyouiku-gakkoukyouiku@city.tamba.lg.jp

兵庫県森林動物研究センター

所在地：〒669-3842
丹波市青垣町沢野940
電話番号：079-80-5500
ホームページ：https://wmi-hyogo.jp/
メール：shinrindobutsukenkyu@pref.hyogo.lg.jp

兵庫県丹波県民局県民交流室 環境課

所在地：〒669-3309
丹波市柏原町柏原688
電話番号：0795-73-3774
ホームページ：https://web.pref.hyogo.lg.jp/org/tanbak-
kenmin/kenmin.html
メール：tambakem@pref.hyogo.lg.jp

丹波地域環境パートナーシップ会議 会員一覧

(令和6年1月15日現在)

住民団体

(五十音順)

名 称	郵便番号	住 所	電話番号	代表者
青垣いきものふれあいの里 友の会	669-3833	丹波市青垣町山垣 2115-6	0795-88-0888	足立 誠
江古花園運営委員会	669-3801	丹波市青垣町東芦田 432-3	0795-87-0872	芦田 八郎
梶自然愛好会	669-3154	丹波市山南町梶 437-2	090-5041-9962	藤原 利正
上久下恐竜の里づくり部会	669-3102	丹波市山南町下滝 205 上久下地域づくりセンター	0795-78-0001	常岡 芳朗
鴨庄オオムラサキ飼育の会	669-4317	丹波市市島町上牧 536-1	090-6833-3591	安達 眞治
篠山市サギソウ保存会				谷口 次男
篠山自然の会	669-2413	丹波篠山市西浜谷 388-4	079-552-1203	角谷 慶治
一般社団法人里山未来ラビット	669-3634	丹波市氷上町沼 104-5		クリス・クロサワ
住友ゴム工業株式会社市島工場	669-4323	丹波市市島町梶原 5	0795-85-3000	五十川 一彦
多紀連山のクリンソウを守る会	669-2303	丹波篠山市瀬利 92-3 (みたけ会館内)	090-3702-2751 (津田)	細見 隆夫
TANBA OUTDOOR ECOLOGY	669-3613	丹波市氷上町上新庄 1184-1		本庄 健吾
丹波篠山自然塾むしクラブ	669-2605	丹波篠山市藤坂 862	079-558-0178	大塚 剛二
丹波篠山市地球温暖化防止活動 推進連絡会	669-2737	丹波篠山市東木之部 164	079-593-0226	谷口 功
丹波佐治川自然の会	669-3801	丹波市青垣町東芦田 928-2	0795-87-0103	長井 克己
丹波自然友の会	669-3301	丹波市柏原町南多田 873-2	0795-72-0180	梅垣 守明
丹波市地球温暖化防止活動推進 連絡会	669-4132	丹波市春日町野村 255	0795-74-1286	婦木 道子
丹波地域のホトケドジョウを守る 会	669-3309	丹波市柏原町柏原 5600 (丹波の森公苑森づくり課内)	0795-72-5165	山科 ゆみ子
丹波野鳥の会	669-3575	丹波市氷上町小野 622	090-2288-8500	梅津 節雄
一般社団法人 日本野外生活推進協会	669-4317	丹波市市島町上牧 691 (事務局)	0795-85-2639 (事務局)	高見 豊
NPO 法人バイオマス丹波篠山	669-2714	丹波篠山市垣屋 159-2	079-593-1150	高橋 隆治
姫ポタルまつり実行委員会	669-3154	丹波市山南町梶 437-2	090-5041-9962	藤原 利正
兵庫丹波オオムラサキの会	669-3309	丹波市柏原町柏原 5600 (丹波の森公苑森づくり課内)	0795-72-5169	足立 隆昭

名 称	郵便番号	住 所	電話番号	代表者
南新町美しいまちづくりの会	669-2333	丹波篠山市南新町 263-4	079-552-1383	清水 恵治
妙高山のクリンソウを守る会	669-4315	丹波市市島町喜多 1140-1 (鴨庄コミセン内)	0795-85-2457	細見 武憲
森自然環境保全友の会	669-3812	丹波市青垣町小倉 566	090-2013-9269	足立 篤夫
森のホタル調査隊 in 丹波	669-3154	丹波市山南町梶 437-2	090-5041-9962	藤原 利正

行政団体

名 称	郵便番号	住 所	電話番号
丹波篠山市教育委員会学校教育課	669-2397	丹波篠山市北新町 41	079-552-5653
丹波篠山市環境みらい部農村環境課	669-2397	丹波篠山市北新町 41	079-552-5013
丹波市教育委員会学校教育課	669-3198	丹波市山南町谷川 1110	0795-70-0811
丹波市生活環境部環境課	669-3692	丹波市氷上町成松字甲賀 1	0795-82-1290
丹波市立青垣いきものふれあいの里	669-3833	丹波市青垣町山垣 2115-6	0795-88-0888
丹波の森公苑事業推進部森づくり課	669-3309	丹波市柏原町柏原 5600	0795-72-5165
兵庫県教育委員会丹波教育事務所	669-2341	丹波篠山市郡家 451-2	079-552-7486
兵庫県森林動物研究センター	669-3842	丹波市青垣町沢野 940	0795-80-5500
兵庫県立ささやまの森公園	669-2512	丹波篠山市川原 511-1	079-557-0045
兵庫県丹波県民局県民交流室環境課	669-3309	丹波市柏原町柏原 688	0795-73-3774

丹波の四季

<春>



フジの雨（白毫寺）



キリシマツツジと狛犬（一の宮神社）

<夏>



お堀のハス（篠山城趾）



ひまわり柚遊農園（柚津）

<秋>



黄葉（兵庫陶芸美術館）



丹波竜と稲刈り（丹波竜の里公園）

<冬>



山茶花のじゅうたん（西方寺）



俱利伽羅不動の滝（栗柄）

編集・発行
丹波地域環境パートナーシップ会議

事務局：丹波県民局県民交流室環境課
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原688

☎ : 0795-73-3774

FAX : 0795-72-3013

クリーン丹波

